

新 地場企業 群像

菓子専門の卸売りを手がける地場大手。約2千種類の商品を扱う。近年は、全国に展開するスーパーやドラッグストアとの取引も増えている。浦上和明会長(65)は「それぞれの地域で圧倒的に強い企業を目指す」と力を込める。

商品を単に売るだけでなく、菓子売りの場のコーディネートターとして取引先の菓子にまつわる課題解決にも取り組む。消費者の動向を分析し、品ぞろえや陳列の仕方を助言する。「他社より優れた役割を果たす売り

中国経済

外林
(福山市)

菓子卸陳列など助言も



菓子が並ぶ倉庫で打ち合わせをする物流担当と営業担当の社員

〈会社概要〉本社は福山市卸町。関東や関西、東北など全国に13カ所の営業拠点を構える。従業員196人。2022年5月期の単独の売上高は659億9千万円。

「場のプロでありたい」と浦上会長は話す。

グループ会社には、手頃な価格の「自然味良品」や「個食美学」など独自ブランドの企画開発をするエヌエス(大阪市)がある。定番商品だけでなく季節や市場の動向に合わせて常に新しい味を企画し、目新しさを出している。

商品を置く倉庫を管理するエヌエス物流(福山市)や受発注や売り上げ管理の

システム開発を担うエヌエスシーエス(同)もある。力を入れるのが卸売業務に関わる各機能の強化だ。

例えば現在は企画開発した商品の生産は他社に委託しているが、将来的には自社での製造を視野に入れる。物流やシステムも他社からの受注が担えるくらい技術力を高めるのを目標に掲げる。浦上会長は「それが専門性を高めれば、おのずと卸としての力が付いてくる」と強調する。

故外林茂氏が1930年に福山市で菓子の製造業として創業した。太平洋戦争や茂氏の急逝で休業したが、妻の故ムツヨ氏が菓子の小売業で再開した。「お菓子を食べながら泣いたり怒ったりする人は見たことがない。働く人が笑顔で、発展し続ける会社でありたい」と浦上会長は思い描く。

(山川文音)